

平成30年度 畜産研究課 試験研究課題一覧

| | 研究課題名 | 研究内容 | 研究期間 | 担当 | 共同・協力機関 |
|----|---------------------------------------|--|-----------------|----------------|--------------------------------|
| 1 | 機能性飼料を活用した暑熱ストレス軽減技術の開発 | 地球温暖化の影響による生産性の低下を軽減するため採食量低下を補う効率的なエネルギー補充技術、地域未利用資源を活用した酸化ストレス低減技術について検討する。 | H28 ～ H30 | 酪農・肉牛 (乳用牛) | |
| 2 | 乳用牛の泌乳量の平準化とAI(人工知能)の活用による健全性向上技術の開発 | 泌乳量の平準化による健全性向上のため、乾乳期飼養方法を確立するとともに、農家における経済性を評価し、生涯乳量の向上と生産コストの低減を図る | H28 ～ H32 | 酪農・肉牛 (乳用牛) | 岐阜県 岡山県 広島大学 家畜改良センター |
| 3 | 乳用牛の泌乳中のエネルギーバランスにおける遺伝的能力評価形質の検索 | 乳用牛における生涯生産性の育種改良に必要な評価形質の解明並びに生涯生産性における遺伝的能力評価手法の開発について検討する。 | H29 ～ H31 | 酪農・肉牛 (乳用牛) | 筑波大学 酪農学園大学 (他11府県) |
| 4 | 乳牛へのポリフェノール給与による分娩間隔短縮効果の検討 | 乳牛の平均分娩間隔延長の改善を図るため、抗酸化物質(ポリフェノール)給与による分娩間隔の短縮化に伴う収益向上について検討する。 | H29 ～ H31 | 酪農・肉牛 (乳用牛) | |
| 5 | 乳用牛群検定普及定着化事業 | 検定成績の分析指導と牛群検定農家及び検定指導員を対象として、牛群検定情報の活用促進を図るための研修会を開催する。 | H13 ～ | 酪農・肉牛 (乳用牛) | 県酪連 牛群検定組合 |
| 6 | 家畜改良総合対策推進事業 | 受精卵移植技術により、県内で飼養されている乳牛の優良遺伝子を有効活用し、酪農経営の維持発展を図る。 | H20 ～ | 酪農・肉牛 (乳用牛) | |
| 7 | 牛受精卵を用いた性染色体蛍光標識による性別判別技術の開発 | 電気穿孔法により性染色体に結合する蛍光色素を導入し、可視により雌雄判別された牛雌受精卵の移植後の受胎性について検討する。 | H30 | 乳牛 | |
| 8 | 国産飼料を最大限に活用した乳肉用牛育成技術の確立 | 輸入飼料価格の影響を受けにくい養牛経営を育成するため、県内自給飼料に加え、濃厚飼料を飼料米に代替した乳肉用牛の育成技術について検討する。 | H28 ～ H30 | 酪農・肉牛 | |
| 9 | 免疫力UP! 疾病を防ぐ和牛哺育技術の確立 | 和牛繁殖農家の収益向上を図るため、子牛の哺乳期における疾病率の低減に向けた人工保育技術について検討する。 | H28 ～ H30 | 酪農・肉牛 (肉用牛) | |
| 10 | 飼料用稲の有効活用及び和牛繁殖牛の生産性向上による阿波牛ブランド競争力強化 | 耕畜連携で生産された県産稲発酵粗飼料(WCS)の有効活用とWCSの機能成分や繁殖機能に与える影響について検討する。 | H28 ～ H30 | 酪農・肉牛 (肉用牛) | |
| 11 | ICT技術を活用した省力化と肥育期間短縮による収益向上の検討 | 育成牛の早期肥育開始を可能とする育成技術を確立するとともに、超音波診断装置を活用した各肥育段階での肉質検査を行い、早期肥育牛の出荷を可能とする飼養管理技術を確率する。 | H30 | 肉用牛 | |
| 12 | 地方創生拠点整備効果促進事業による備品整備(肉用牛能力改良強化施設) | 本県ブランド牛である「阿波牛」の生産性・所得向上を図るため、既存の飼養施設を改修し、「阿波牛」の生産基盤となる肉用種雄牛の飼育及び精液採取・保管施設として整備する。 | H30 | 肉用牛 | |
| 13 | 受精卵供給センター事業 | 黒毛和種牛の優良受精卵を採卵し県内畜産農家に供給することにより、繁殖牛の改良と肉用素牛の増頭を図る。 | H1 ～ | 酪農・肉牛 (肉用牛) | |
| 14 | 県産飼料用米の活用による和牛肥育技術の確立 | 県産飼料用米給与による効率的かつ飼料コスト削減を可能とした和牛肥育技術の確立を図る。 | H29 ～ H31 | 酪農・肉牛 (肉用牛) | |
| 15 | 香酸柑橘類を活用した高付加価値豚肉生産技術の開発 | 県特産品である「スタチ」と「ユズ」残渣を肥育期飼料として活用し、輸入肉及び一般国産豚肉との差別化、高付加価値化を図った豚肉を生産する技術を開発する。 | H29 ～ H31 | 養豚 | |
| 16 | DNAマーカーを活用した大ヨークシャー種繁殖性改良技術の開発 | 大ヨークシャー種の繁殖性等の生産性の改良について、DNAマーカー情報を活用して効率的な繁殖能力の改良技術を開発する | H29 ～ H31 | 養豚 | |
| 17 | 豚の遺伝子再生技術の確立 | 口蹄疫汚染等のリスク管理の一つとして、これまでに開発・改良したブタの遺伝資源の保存および再生技術を確立する。 | H30 | 養豚 | |
| 18 | 「アウォーク」の維持に関する試験 | 県の系統豚「阿波ヨーク」の維持と増殖農家への種豚供給及び近交係数の上昇に伴う能力への影響を調査する。 | H6 ～ | 養豚 | |
| 19 | 阿波とん豚の維持に関する試験 | 維持系統における遺伝子型固定豚の増頭、肉質に関わる候補遺伝子領域の絞り込みによる選抜効率の向上及びBLUP法を活用した繁殖能力の改良等を検討し、阿波とん豚種豚の安定供給を図る。 | H28 ～ | 養豚 | |
| 20 | 阿波とん豚増産・流通システム確立事業 | 徳島大学の技術支援を受け、「受精卵移植」など新たな増殖技術を確立し、「阿波とん豚」の種豚供給体制を強化する。 | H29 ～ H31 | 養豚 | |
| 21 | 阿波とん豚の生産性改良技術の開発 | これまでの研究で繁殖性との関連性が示唆されたDNAマーカーについて、調査数を増やし、DNAマーカーとしての有効性を検証する。 | H30 | 養豚 | |
| 22 | 自給飼料を活用した豚肉、鶏肉、鶏卵の差別化技術及び低コスト生産技術の開発 | 地域資源や飼料用米等の自給飼料を活用し、特色のある豚肉や鶏肉・鶏卵の低コスト生産技術を確立し、実証する。 | H28 ～ H30 | 養鶏 | 新潟大学 愛知県等 |

| | 研究課題名 | 研究内容 | 研究期間 | 担当 | 共同・協力機関 |
|----|---|--|-----------------|------|--|
| 23 | 阿波尾鶏の経営力を高めるLED照明技術の開発 | 行動制御効果の高い青色LED光と、生育後期の増体向上効果が高い白色LED光が「阿波尾鶏」の生育に及ぼす影響を調査し、慣行飼育に適する照明プログラムを作成する。 | H30 ～ H32 | 養鶏 | |
| 24 | 阿波尾鶏安定生産確保事業 | 「阿波尾鶏」の品質保持及び安定生産を図るため、生産規模に応じた原々種鶏群系統の維持及び種卵供給に取り組む。 | H13 ～ | 養鶏 | 養鶏協会 |
| 25 | 高能力飼料作物品種選定調査 | 本県に適した生育性・収量性に優れた飼料作物の品種選定を行い、優良品種の普及促進に努め、粗飼料自給率の向上を図っていく。 | H22 ～ | 飼料環境 | |
| 26 | 飼料関連事業 | 生育等の優れた飼料作物の研究・普及を図る。 低コスト放牧の拡大、公共牧場の活用等を通じた日本型放牧の普及・定着を図る。 | H26 ～ | 飼料環境 | |
| 27 | 府県型イアコンサイレージ生産利用体系の開発と実証 | 国産濃厚飼料の生産システムの構築を目的に、野菜農家の緑肥作物として飼料用トウモロコシを栽培し、子実(イアコン)のみ収穫を行い、家畜の濃厚飼料とする作業システムを構築する。飼料用トウモロコシの茎葉は野菜の緑肥とし、その効果を検証する。 | H29 ～ H31 | 飼料環境 | 革新工学セ タカキタ 岡山農総セ フタバ飼料 西日本農研 |
| 28 | 不耕起栽培を利用した暖地2年5作体系による飼料増産技術の開発 | 不耕起栽培を取り入れた西南暖地における2年5作体系の飼料作物栽培技術を確立する。 | H27 ～ H31 | 飼料環境 | |
| 29 | 粉碎モミガラの敷料・堆肥化試験 | 入手困難となりつつあるオガクズの代替として粉碎したモミガラの敷料利用を検討するとともに敷料使用後の堆肥化特性も検討する。 | H28 ～ H30 | 飼料環境 | |
| 30 | 畜産バイオマス利活用推進事業・堆肥分析センター (環境汚染防止対策) | 畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。 | H28 ～ | 飼料環境 | |
| 31 | 畜産バイオマス利活用推進事業・堆肥分析センター (堆肥等品質・成分分析) | 堆肥、尿汚水の品質、成分分析を実施する。 | H28 ～ | 飼料環境 | |